【用語】御蔵―江戸浅草の幕府の米蔵　下山上村―勢多郡新里村　納宿―年貢米を米蔵に納入する際に立ち合う札差のこと　水揚―船の荷物を陸揚げすること　内拵―年貢米の枡目が不足の俵に補充して繕うこと　根太木―米積み込みの床板を支える横木　苫菰―菅や茅であらく編んだむしろ　損料―品物が傷んだ際に代償として払う金銭　摺縄―しゅろの縄　御張紙直段―幕府公定の米と金銭との換算率、米の値段

【解説】上野国内の村々から幕府・大名などへ納入される年貢米は、原則として各村毎に名主がとりまとめ、おもに利根川の舟運を利用して江戸浅草の幕府米蔵や大名の蔵屋敷へ廻送された。

この文書は、明和九年（一七七二）十月、勢多郡下の幕府領の年貢米二二八俵を納めた際の諸経費を幕府代官の前沢藤十郎へ届け出たものである。下山上村の納名主義右衛門は、この時おそらく幕府領村々の惣代名主を務めていたと思われ、年貢米を利根川の河岸場から積み出し、浅草の米蔵へ廻送して蔵納めするまで一切を担当したようである。また、納宿の十一屋与兵衛は年貢米が廻送されてきた時、その水揚げから蔵納めまで立ち合い、さらに蔵米の売却を請け負った商人で、蔵宿（くらやど）とも称した。諸経費の内訳についてみると、納宿の給米、根太木運賃、苫菰・掛網、敷莚等の損料、摺縄、水揚手伝い人足・納手伝い人足の賃金、納名主の雑用などの単価と金額が記され、その合計銭二貫七〇〇文余は納宿へ支払われていることがわかる。こうして幕府の米蔵へ納められた年貢米は、蔵宿をとおして蔵米取りの旗本御家人などへ支給されたのである。